



2022年7月10日、第26回参議院議員選挙が投開票されました。私たち日本輸送サービス労働組合連合会(以下、JTSU)は、今回の参議院選挙に向けて「社会生活の転換に伴い、平和思考から国際安全保障を考え、日本国憲法を不断の努力によって守り抜こう!」をはじめとする5本柱を掲げ、推薦候補者として青木愛氏、支持候補者として松尾明弘氏を擁立し必勝に向けて取り組んできました。結果は、推薦候補者の青木愛氏は当選を果たしましたが、残念ながら松尾明弘氏は惜敗でした。投開票日まで公選はがきをはじめ、多くの取り組みにご協力頂いたこと、また、参議院議員選挙に注目し、ご協力頂いた組合員とご家族の皆さまに心から感謝申し上げます。

私たちJTSUは、この参議院選挙に取り組むにあたり、5本柱を基軸にしたJTSU運動を連帯して創り出すことのできる立候補者について関係する単組と検討を重ね、青木愛氏を推薦、松尾明弘氏の支持を決定してきました。特に青木愛氏は、3月2日、参議院予算委員会において、「鉄道の今後のあり方」について質問して頂き、6月9日には、国土交通省審議官と意見交換の場も設定して頂くなど、JR会社を監督する省庁に私たちの問題意識を直接訴える取り組みを共に創り出して頂きました。

このような取り組み一つひとつを職場からの運動と結び付けたことで、結果として青木愛氏が当選を果たした原動力となったことは間違いありません。これからも職場の組合員の声を国政に届け、反映させていくことが私たち組合員・家族の利益へとつながることを確信し、JTSU運動を力強く推し進めていく所存です。

今回の参議院選挙は、ロシアによるウクライナへの侵攻や「第7波」と言われるコロナウイルスの感染拡大、また、投開票日の2日前には、安倍元首相が襲撃され死去する痛ましい事件が起こるなど、これまでにない混沌とする社会状況の中で行われました。

選挙戦の特徴は、選挙の争点が見えづらかったことが挙げられます。争点が見えづらい要因として、物価高対策やコロナウイルス感染対策、最低賃金や教育無償化の問題、そして、日本の安全保障問題など与野党が共通する政策課題が数多いことに合わせて、タレント候補者や新党からの候補者が乱立したことにより、それぞれの政策の違いが一目で分かりづらいことが背景として存在しています。

投票率は、52.05%と前回より3.25%(前回48.8%)上昇しましたが、戦後4番目の低投票率となりました。そして、今選挙においても野党共闘が進まず、全国32ある1人区で4勝28敗と野党が惨敗したことから、政権与党が大勝したことで、改憲に前向きな4党(自民、公明、国民、維新)が非改選を含めた改憲の発議に必要な3分の2(166議席)以上の177議席を確保する結果となったことは大変憂慮すべき事態です。この結果を受けて、大手新聞をはじめとする一部マスメディアは、改憲発議に向けた動きを盛んに進めていますが、慎重に検討すべき重要な課題です。

今年は、鉄道開業150年の節目を迎えました。安全・安心な鉄道を未来に残すためには、エッセンシャルワーカーの社会的価値の向上を基本とする「グリーンジョブ2028」総合労働政策を実現していくことが必要です。そして、あらゆるハラスメントをなくすことが重要です。この参議院選挙の取り組みを通じて連帯の輪は大きく広がりました。その力を今後の統一地方選挙に繋げていきます。

私たちJTSUは、議員懇談会をはじめとするすべての連帯する皆さんと共に、職場と政治と地域社会において「政策実現」に向けて、組合員と家族の負託に応えていきます。そのために、さらに奮闘していくことをお約束し、お礼に代えさせていただきます。

2022年7月17日
日本輸送サービス労働組合連合会

「第26回参議院議員選挙を終えて」
〜組合員・ご家族の皆さんへ〜